平成１６年３月１日発行

かまにし

発　行　わがまち大田蒲田西地区推進委員会
編　集　地域情報紙編集委員会

第１１号

わがまちの顔

漫画家　たかもち　げんさん

本年一月より、日曜夜八時にＴＢＳ系テレビで、「こちら本池上署」が放映されています。ご覧になっている方も多いと思います。

今回は、東矢口一丁目にお住まいの原作者である「たかもちげん（本名　南波　省三）」さんの奥様にお話を伺いました。

たかもちさんは、残念ながら平成十二年に癌の為、五十一歳の若さで亡くなられました。

たかもちさんは、高校卒業後、新潟県から上京、漫画家の望月三起也さんに弟子入りし、アシスタントを経てデビューされました。

「こちら本池上署」は、週刊モーニングに連載されていた「警察署長」をテレビ化した作品です。第一巻～第三巻までをご本人が執筆され、その後はアシスタントをしていた『やぶうち　ゆうき』さんが引き継いで現在に至っています。韓国、タイ、台湾でも豪将　源の名前で出版されています。ペンネームは、源　義経にちなんで付けたと言うことです。

本池上署のモデルは、もちろん池上警察署です。高嶋政伸さんが署長を勤める本池上署を舞台に、署員の人達の活躍を描いています。昨年十二月には、多摩川一丁目にある安方神社近くの民家にてロケを行っていました。また、高嶋さんは、平成十四年と十五年、秋の交通安全週間では、「一日署長」としてキャンペーンに協力して頂きました。

一日署長の高嶋さん

ストーカー、保険金殺人、おれおれ詐欺等、最近社会問題になっている題材を取り上げていますが、全体的にほのぼのとした安心して見ていられるホームドラマ調になっています。

たかもちさんが、この作品を書こうと思った動機は、警察の不祥事が多発していた頃、自分の理想とする警察を描きたかったと言う事で執筆されました。ご本人は、テレビ化される前に亡くなられましたが、天国で楽しく満足して見ていらっしゃる事でしょう。

この他に、医療現場を題材にした「ＭＥＤＩＣＡＬ99」「代打屋トーゴー」等の作品があります。

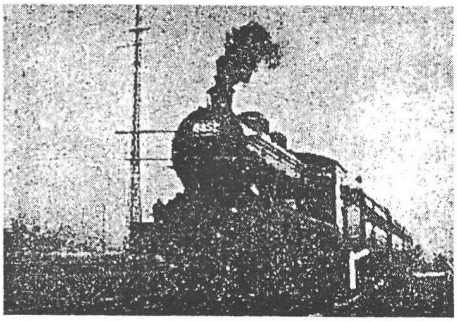
家庭でのたかもちさんは、四人の子供の父親として意見の交換をしたり、本の感想を話し合ったり、正義感に溢れた優しいお父様だったと言う事です。また、奥様の友人が、遊びに来られて帰られる時、夜になると駅まで送っていくという妻想いの心優しい夫でもあったそうです。

（取材　高橋・伊藤委員）

たかもちさんの作品

おめでとう！ JR蒲田駅開設百周年

♪汽笛一声新橋を
はや我汽車は離れたり
愛宕の山に入りのこる
月を旅路の友として



一匹の鯉で蒲田駅が誕生

明治五年（1872）に新橋と横浜間に軌道が敷設され、陸蒸気（おかじょうき）が運転を始めました。

この頃の大田区内の沿線は、農村地帯で桃畑や麦畑が多く茅葺き農家が点在している程度で、もちろん乗客も見込めず鉄道建設で来日したイギリス人技師のために、今の大森駅の南寄りに休憩所をつくり、必要に応じて汽車を停めていたそうです。その四年後の明治九年に大森駅が開設されました。

アメリカの動物学者モース博士が横浜から新橋に向う途中、汽車の窓から貝殻が堆積しているのを発見し、間もなく日本で最初の科学的発掘調査が行われました。これが大森貝塚です。多くの研究者が山王へ山王へとやって来るようになり、ついにここに停車場を作ってしまいました。また、池上本門寺や山王の八景園、大森海岸の海水浴場、海岸の料亭等、名所が多く遊客の増加で採算を見込めるという理由もありました。

その点では蒲田にも大森に負けない名所がありました。江戸時代より観梅で名を馳せた「梅屋敷」（かまにし17第7号で紹介）や堀切と並ぶ「菖蒲園」（蒲田小学校付近）で、毎年近郷より大勢の物見遊山の人々で賑わいました。地元の村民たちも来遊客を誘致し、村の繁栄のために大森駅同様に停車場の設置をと願うようになりました。当時の蒲田村村長、月村惣左衛門氏をはじめ村の有力者たちは、当時の鉄道長官平井清次郎氏に哀情を陳情し、努力を重ねた結果、大森駅に遅れること二十八年、明治三十七年(1904)四月十一日に蒲田駅が誕生しました。駅舎は「梅屋敷」や「菖蒲園」の来遊客を見込んで東口に改札口があっただけでしたが、駅開設の夢が実現し列車が停まるというので、村民は畑仕事を休んで日の丸の小旗を振って祝ったということです。

実は、駅舎開設のために村長や村民たちの苦渋に満ちた影のエピソードがありました。当時池上に住んでいた鉄道長官は、蒲田駅の開設は、採算上から無理と決め込んでいました。村長たちが何度も陳情のために訪問しても会ってもくれず、無駄な歳月が過ぎるばかりでした。村民有志は長官を口説くための知恵をしぼり、「将を射んとせばまず馬を射よ」の故事にならい長官のご子息のご機嫌を取るのがよいと判断し、手分けして大人がやっと抱えることが出来るほどの大きな鯉を探しだしてき、満々と水を張った盥（たらい）を長官の家に持ち込みました。計画は図に当り、喜び騒ぐご子息に何事かと、とうとう長官を盥の傍に立たせてしまいました。恐る恐る陳情に及んだ結果、長官も村民の熱意に打たれ、蒲田駅設置問題の詮議となり、遂に設置の夢が実現されることになりました。

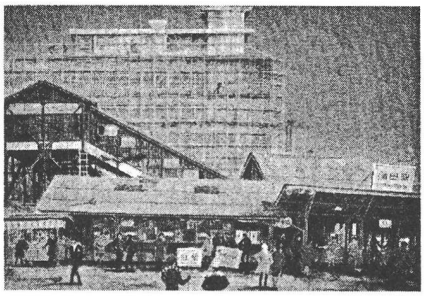
明治３７年に建てられた蒲田駅

西口改札口の開設と私鉄開通

待ち焦がれた蒲田駅は開設されましたが、当初は大変淋しいものでした。昼間はポツポツと

乗降客の姿も見えましたが、日暮れ頃から夜になると、闇に包まれた広大な駅の構内には、ちらちらとランプの灯影が揺らめくばかりで、咳一つ聞こえずシーンとしたプラットホームから汽車のつく度に人影が二人か三人、それからしばらく沈黙がつづいて、八時を過ぎる頃は全く人影が絶える有様でした。

それから十一年後、大正三年十二月にはじめて電車が走ることなりましたが、故障が続き一週間で運転を中止し、本格的に運転を再開したのは大正四年五月でした。当時、この線は鉄道院、京浜電車といい、「院線」と呼ばれていましたが、この頃から鉄道省と変わり「省線」と呼ばれるようになりました。



『国電新旧蒲田駅』安西啓明作

蒲田駅が開設されても改札口は東口一つの時代が長く続き、大正後期になると女塚、矢口方面の人口が急増し、利用者は踏み切りを横断して東口から乗車しなければならないという不便を強いられてきました。そこで西口駅舎の新設の請願が出され、ようやく大正十一年(1922)七月三日に西口駅舎の開設を見ることができました。

一方、私鉄でもっとも古いのは京浜電鉄で蒲田駅開設より、五年も早く明治三十二年一月には、六郷橋、川崎大師間を開通させ、同三十四年二月には、京浜蒲田を経て大森海岸まで運転開始、三十六年五月には品川八ツ山まで延長されました。三十五年六月に穴守線が開通、京浜蒲田から稲荷橋、大正二年に穴守まで延長しました。

目蒲線は、大正十二年三月に目黒、丸子間が同十二年十一月に蒲田まで延長されました。田園都市株式会社が大正七年に設立され、荏原郡において土地の買収を行い、洗足、大岡山、田園調布地区の分譲を大正十一年から始めました。その会社の鉄道部門が目黒蒲田電気鉄道です。

池上電気鉄道株式会社は、大正六年の創立で大正十一年蒲田から池上間が開通しました。その後、目蒲電鉄は池上電鉄を合併し、さらに東横電鉄とも合併して、東急電鉄の基を築き都市化された今日の発展を見るようになりました。

躍進する蒲田

戦前、蒲田といえば「蒲田キネマ撮影所」、大正から昭和の初期にかけて、流行は蒲田からといわれるくらい華やかな街でありました。戦後、呑川べりに建てられた木造校舎の通称「テレビ学校」が時流に乗り現在は蒲田駅前に、いくつものキャンパスが立ち並び「日本工学院専門学校」として、大成長を遂げました。一方、西口に九店舗を構える総合雑貨商「ユザワヤ」、地元はもちろんのこと、関東近県からの買い物客で終日賑わいをみせ、特徴ある買い物袋をさげたご婦人たちを駅構内や商店街で見受けます。

現在、ＪＲ蒲田駅の一日乗降人員は二十六万人で、東京二十三区内では十五位にランクされています。開設当時の乗降客が二百人にも満たなかったことを考えると、まさに隔世の感があります。

蒲田駅では開設百周年の記念行事として平成十六年四月十日、十一日に東急口通路にて記念オレンジカードや鉄道グッズの販売、写真パネル展や記念撮影等を計画しています。

蒲田駅をターミナルとする東急多摩川線、池上線を地下駅とし、とくに多摩川線を京浜蒲田駅まで延長して羽田空港まで乗り入れる計画がかなり具体化してきました。羽田空港の再拡張と国際空港化にあわせ、この接続で池袋、渋谷方面より羽田空港へのアクセスが確保できる事になります。蒲田周辺のみならず、将来、大田区にとっても産業の再生をふくめ大きな意味を持つことになってきます。

（取材　滝口、竹内、小林、柏村委員）

現在のＪＲ蒲田駅西口

新蒲田一丁目自治会 その昔、そしてこれから

栗山　美智子

最近、新しく生まれ変わった富士通ソリューションスクエアをはじめ、大田区民センター、新蒲田公園、大正時代より変わらず現存する蒲田電車区等、大きな建物と広域を含む反面、諸工場、新興住宅地として静かな土地空間を有する中、世帯数が少ないというのが、現在の新蒲田一丁目自治会です。

大正から昭和二十年代頃まで新蒲田一丁目自治会の地域の大半は、黒沢商店蒲田工場の所有であり約二万坪の敷地の中に工場を中心として、社宅、農園、遊園地、テニスコート、従業員の子供の為の学校まで含む黒沢村（ユートピア）がありました。

黒沢商店は、アメリカから技術を持ち込み、日本で初めてタイプライターを作り始めた会社ということです。新蒲田公園内のけやきの木などは、懐かしき黒沢村を彷彿させる一つであろうと思われます。

平成十四年から公園自主管理制度が発足し、新蒲田公園は、現在、若き有志達の花壇チームが丹精に草木を育てています。費用は、新蒲田一丁目自治会の助成金と会員の皆様方の暖かい御寄付によって運営されています。又、公園の掃除などは、早朝より当自治会の老人部の方々が健康のためと称して二十年間の長きに渡り続けております。

その他、青婦人部主催で、子供の夏休みには、「あそぼうフェスタ」を道塚商店会協賛の下、防災訓練も取り入れて、大人も子供も「あそぼう」「あすの防災」と楽しみながら開催しています。又、カラオケチームもあり、青年部中心のバーベキュー大会も平成十五年に初めて試みました。これから先も多種多様のサークル活動を通じ、自治会内のコミュニケーションを図って行きたいと考えています。

尚、当自治会は、会社及び一戸建て、マンション、共同住宅に至るまで、全世帯が会員であり、マンションにも役員として協力して下さる方々が多数いらっしゃいます。

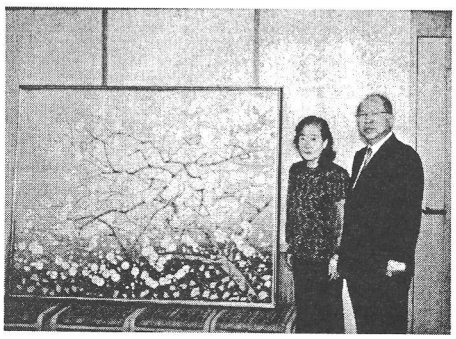
この事を誇りに思い、その昔ユートピアと呼ばれた場所で、以前より負けない位のユートピアとしての新蒲田一丁目自治会を確立させたいと思っています。

事務局からのお知らせ

前号の「わがまちの顔」で紹介した多摩川二丁目在住の日本画家　久野千代子女史の作品が大田区に寄贈されました。平成十五年十一月十九日、久野女史が区役所に西野区長を訪ねて、贈呈式が行われました。

寄贈された作品は、大田区の花「梅」を題材とした『春香』です。区役所北側二階に一月二十六日から二月末まで、作品が展示されていました。

また、蒲田西特別出張所では三月上旬まで、久野女史の作品「吉祥」と「奥入瀬」を展示していますので、機会がありましたらご覧ください。



寄贈された作品『春香』と記念撮影

編集後記

前号の記事の一部に誤りがありましたので、この場を借りて訂正させて頂きます。

一頁本文二段目二十二行目「会友と同時に」を「会員として」に、三段目三行目「、各賞を受賞し」を削り、同段四行目「福井県」を「富山県」に訂正します。

二頁中「井伏氏が訪れた頃と思われる医院」の写真は、間違との指摘があり、写真の前の建物の時に、井伏氏が訪れたそうです。

蒲田西特別出張所管内

人口	男	29，466人
	女	27，280人
	計	56，746人
世帯		29，001世帯

平成１６年２月１日現在

情報紙に対するご意見・ご感想などを事務局までお寄せください。

事務局　蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七―十二―七
（三七三二）四七八五